

## 社会の進化を目指して 更に広範な活動を期待する

元総合科学技術会議議員 桑原 洋\*



横断型基幹科学技術研究団体連合の創立10周年に当たり心からお祝いを申し上げますとともに、この間、新しい方向へ向けて積み重ねられてこられた連合会員各学会での価値ある議論、努力に対し深い敬意を示したいと思えます。

発足当初の議論を思い出します。当時、多くの縦型科学技術科目に対し、これに共通に横串的に存在する科学技術群（モデリング・シミュレーション技術など）の認識と、これらの更なる進化の必要性を強く求める関連学会の方々が、総合科学技術会議の議員をしていた私を訪問され、この重要性を熱心に説かれました。これがそもそもの始まりです。その後、文部科学省、経済産業省などの関係府省をはじめ関係先に精力的に説明され、第3期科学技術基本計画に反映される運びとなり、以降活動が活発に展開されることになりました。

一方、横幹連合創設1年が経った時点で、当時の吉川弘之会長から、産業界でも対応する組織を立ち上げて欲しいとのご要望を受け、横断型基幹科学技術推進協議会を立ち上げ現在に至っております。

その後、社会は大きく変化します。更なる世界の発展のためには、これまでの延長ではなく、新しいイノベーションが必要であるとの方向性が広く認識されるに至りました。イノベーションは「新しい文化の創造」であり、それには「新しい文化」の「想起」、市場性を市場で確認、「本格投入、進化」の手順が必要ですが、日本では学界は市場から遠く、産業界は20世紀での人まねから脱却できず、謳えども実現に遠い状況が続いています。科学技術の出口、社会への接点は全てシステムであり、システムは複数の異なる科学技術の集合体、統合体であることを直視すると、これから力を入れるべき方向は、横幹科学技術の更なる発展と共に、異種科学技術の集結、統合、調和であろうと考えられます。これには、横幹連合、協議会の発足後間もなく、互いにこのままの推進に自信と不安を抱きながら、多くの建設的な議論が戦わされてきました。この軌跡は、今までの科学技術分野には

なかった新たな方向性を示唆する議論でありましたし、今なおこの議論は続けられています。素晴らしいことです。

先の横幹フォーラムで、原島東大名誉教授が、イノベーションとは「文化の創造である」と述べられました。これからの方向性を明示する貴重な認識であろうと賛同しています。これらの動きを含めて、横幹科学技術のあるべき姿が、時代の課題「イノベーションの推進」へ向けて変化、進化していると感じています。それは、「異種科学技術の集結、統合」を、従来のモデリング・シミュレーションに代表される横幹技術とは別の、もう一つの形として捉え、両者をもってこれからの横幹科学技術推進の中核にしようとする考え方です。つまり、横串になる基幹科学技術と、横串を通し統合する基幹科学技術の二つを対象にする考え方です。これを正式設定するには、もう少し組織内検討が必要でしょう。しかし、時代の要請を正視すると、この動きはこれから欠かせません。横幹連合、協議会がこれらに先鞭をつけ、先頭になって推進し、次に繋げる役割を果たすのも極めて有意義なことであろうと思います。

イノベーション実現には、具体的行動が必要です。ヒントは市場にあることは明白です。その原点は人間の欲求にあるのかも知れません。動くべきは、学、産業界です。集まれば文殊の知恵、集まるとの知恵比べ、議論こそ有効であるし、次への展開も含めて貴重な成果が期待できると思います。これまで、「新しい文化の創造」を重要なテーマと認識し、これに向けて学産が集まって議論する機会は皆無に等しい状況でした。また、集まろうとすると、個々に時間的、物理的制約があり、多くの方々を一堂に集めるのは不可能に近いのが現実です。必要と思える方々と検討グループを作り、ネット上で議論する仕組みを構築できれば、大きな進展が期待できると思います。新しい仕組み、これも議論の対象になるでしょう。

今後の横幹連合に期待したいことは、これは翻って横幹協議会も同調し推進することではありますが、会員学会の巾を、人文科学、社会科学を含めて更に大きく広げ、イノベーションへの貢献意識の高揚、共有と産業界との情報交換を活発化して頂くことです。これからの更なるご発展を期待してやみません。

\*横断型基幹科学技術推進協議会会長・日立マクセル（株）名誉相談役